



アクセシビリティ推進委員会

年報

2021

障がい学生支援の実施状況について

札幌学院大学

巻頭言

新札幌キャンパスが2021年4月に開設され、本学の障害学生支援は2キャンパス体制になりました。同時に専門職員として障害学生支援コーディネーターが2名採用され、それぞれのキャンパスに配属されました。本学の障害学生支援は、2001年に学生と教職員有志による自主組織「バリアフリー委員会」による活動から本格的に始まり、2014年に大学のフォーマル組織として「アクセシビリティ推進委員会」が設置され、次第にその体制が充実されてきました。そして、今年度さらにコーディネーターが一度に2名採用されたことは、本学の障害学生支援体制の充実と発展を考える上で特筆すべきことと言えます。

このような経緯は社会的な動向とも関連するところがあります。2014年にアクセシビリティ推進委員会を設置した背景には、障害者差別解消法(2013年成立)の施行が2016年に控えていたことがありました。もとより障害学生支援をフォーマルに位置づける必要性は予め求められていたことですが、法令に適切に対応するためにもタイミングを逃さずこの時期に整備をしました。また、コーディネーター採用の背景は、一義的には2キャンパス化に伴う支援体制の強化という学内事情によりますが、同時に障害者差別解消法が改正され(2021年5月)合理的配慮の提供が私立大学においても努力義務から義務になったことも(3年を超えない範囲で施行予定)、偶然の一致とはいえ制度の変化を見据えた支援体制の強化と言えなくもありません。こうしてみると、本学は適確に社会の動向をとらえながらその支援体制を整え社会的使命と責任を果たそうとしていることがわかります。

こうした障害者差別解消法に代表される障害学生支援の制度化や、学内の支援体制の整備はむろん重要なことであり不断なく強化していくことが肝要です。しかし、こうした変化のなかでも一貫して忘れてはならないことは、障害学生支援の制度や学内の体制が何もないところからはじめた学生と教職員有志によるバリアフリー委員会の「思い(=理念)」だろうと思います。その思いを言葉にするには紙面が足りませんが、今風に一言で言えば、障害のある学生が教育を受ける「実質的な機会平等の確保」だと思います。むろん、そのような言葉で自分たちの活動を表現していたことはほとんどなかったと思いますが、しかしやってきたことはそのようなことです。しかも、いわゆる専門性をもたない人たちが一つ一つ課題を解決しながら今につながる礎をつくってきた、本学にとってある意味では画期となった今年度の体制のなかでその重要性をつくづく思います。

誤解のないように付け加えれば、当然のことながら過去に戻ることを意味しているわけではありません。教育を受ける権利が制度化され、それを支える支援体制が整備・強化されても、何のための障害学生支援なのかと言えばそれは「実質的な機会平等の確保のため」であり今もかつて変わらない、つまり制度や支援体制が変わっても理念は変わらないというきわめてあたりまえのことを言っています。そして今、あらためて考えなければならないことは、その理念の達成は仕組みや形だけで自動的に進展するものではないと思われることです。

本学の障害学生支援はまだ課題が山積しています。というより常に課題は生じるものです。その課題に新たな支援体制のなかでどのように向き合っていくのか、やはりかつてがそうであったように今もそのことが問われているように思います。

2022年3月31日

アクセシビリティ推進委員会委員長

松川 敏道

目次

- I アクセシビリティ推進委員会の概要……………p1
 - 1. アクセシビリティ推進委員会
 - 2-1. アクセシビリティ・学生スタッフ
 - 2-2. アクセシビリティ・学生スタッフ 支援別延べ人数
 - 3. 参考資料 障がい学生数
- II 合理的配慮の実施状況……………p2
 - 1. 情報保障（ノートテイク・パソコンテイク・遠隔テイク・文字起こし・UDトーク）
 - (1)通常の授業における情報保障
 - (2)通常の授業以外に行った情報保障
 - 2. ポイントテイク（筆記代行）
 - 3. 通学・移動支援
 - 4. 授業配慮の依頼状況
- III アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み ……………p3
 - 1. トスプログラム
 - 2. 就職支援
 - 3. 静かな空間の利用状況
 - 4. 学生面談の実施状況
 - 5. 支援者募集と説明会の実施状況
- IV アクセシビリティ推進委員の活動状況……………p5
 - 1. 関係機関の委員委嘱
 - (1) 日本学生支援機構（JASSO）
 - (2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）
 - 2. 北海道障害学生修学支援ネットワーク
 - 3. 発達障がいのある大学生への修学就職支援に関するFD/SD研修会の開催
 - 4. 新たな障がい学生支援体制を考えるワーキンググループ
 - 5. 研修会・会議等の参加

I アクセシビリティ推進委員会の概要

1. アクセシビリティ推進委員会

松川敏道（人文学部人間科学科／委員長）・藤野友紀（人文学部人間科学科）・田中敦士（人文学部人間科学科）・齊藤美香（心理学部臨床心理学科）・皆川雅章（法学部法律学科） 佐野友泰（心理学部臨床心理学科／副学長）・湯川郁子（経済経営学部経済学科）・卜部洋子（学生相談室カウンセラー）・辻由依（学生相談室カウンセラー）・樋田康弘（教育支援課）・廣嶋 進（学生支援課）・佐藤博昭（学生支援課）・水上真一（サポートセンター）・青木美保（サポートセンター）・近藤真樹（障がい学生支援コーディネーター）・藤原祐子（障がい学生支援コーディネーター）

2-1. アクセシビリティ・学生スタッフ

(人)

学科	経営	経済 経営	こども 発達	人間 科学	英語英 米文学	臨床 心理	法律	経済	大学院	計
1年生	0	1	0	3	0	0	0	0	0	4
2年生	2	0	3	6	2	2	0	3	0	18
3年生	3	0	4	5	1	14	3	1	0	31
4年生	2	0	1	4	4	8	1	1	0	21
計	7	1	8	18	7	24	4	5	0	74

※2022年3月31日現在

2-2. アクセシビリティ・学生スタッフ支援別延べ人数

(人)

	パソコンテイク（含む遠隔／文字起こし）	ノートテイク	ポイントテイク	通学介助	計
1年生	11（含む遠隔4／文字起こし3）	0	2	0	13
2年生	31（含む遠隔11／文字起こし9）	0	9	1	41
3年生	38（含む遠隔6／文字起こし12）	9	8	16	71
4年生	20（含む遠隔2／文字起こし6）	5	8	5	38
計	100（含む遠隔23／文字起こし30）	14	27	22	163

※2022年3月31日現在

3. 参考資料 障がい学生数

(人)

	聴覚	視覚	肢体不自由	病弱・虚弱	発達障害	精神障害	重複	その他	
診断書のある学生	2	0	6	3	25	10	4	1	51
診断書のない学生	0	0	0	0	3	3	1	12	19
計	2	0	6	3	28	13	5	13	70

※数値は診断書の有無にかかわらず授業配慮の依頼など何らかの支援を行っている学生数。2022年3月31日現在。

Ⅱ 合理的配慮の実施状況



1. 情報保障（ノートテイク・パソコンテイク・遠隔テイク・文字起こし・UDトーク）

（1）通常の授業における情報保障

前 期	1年生	2年生	3年生	4年生	計	
情報保障を利用した学生数（人）	0	0	0	2	2	
情報保障を行った科目数 ^{※1}	0	0	0	20	20	
※2	ノートテイク	0	0	0	0	0
	パソコンテイク	0	0	0	9	9
	遠隔テイク	0	0	0	1	1
	文字起こし	0	0	0	10	10
	UDトーク	0	0	0	0	0

※2022年3月31日現在

後 期	1年生	2年生	3年生	4年生	計	
情報保障を利用した学生数（人）	0	0	0	2	2	
情報保障を行った科目数 ^{※1}	0	0	0	14	14	
※2	ノートテイク	0	0	0	0	0
	パソコンテイク	0	0	0	8	8
	遠隔テイク	0	0	0	2	2
	文字起こし	0	0	0	4	4
	UDトーク	0	0	0	0	0

※2022年3月31日現在

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2. ノートテイク：手書きによる文字通訳、パソコンテイク：パソコンを用いた文字通訳、
遠隔テイク：T-TAC Caption接続による文字通訳、
文字起こし：音声付動画への字幕作成・修正、YouTube等を使用して文字通訳、
UDトーク：音声認識による文字通訳

※3. 情報保障の支援では、テイクの場合1時間1,365円の謝金が学生スタッフに支払われます。文字起こし作業におけるテイク時間としての換算は、（動画時間数）×4倍で時間計算を行いました。

※4. 手話通訳（外部委託）による情報保障は1科目（通年）実施。また、今年度はロジャーを使用している情報保障は行いませんでした。

（2）通常の授業以外に行った情報保障

- ・キャリアガイダンス（1月／遠隔）
- ・学位記授与式（3月／パソコン）

2. ポイントテイク（筆記代行）

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
ポイントテイクを利用した学生数（人）	1	1	0	0	2
ポイントテイクを行った科目数 ^{※1} 【前期】	1	3	0	0	4
ポイントテイクを行った科目数 ^{※1} 【後期】	3	7	0	0	10

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2022年3月31日現在

※ポイントテイクでは、1時間910円の謝金が学生スタッフに支払われます。

3. 通学・移動支援

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
通学介助を利用した学生数（人）	1	0	0	1	2
週あたりの登下校回数【前期】	0	0	0	0	0
週あたりの登下校回数【後期】	1	0	0	1	2

※2022年3月31日現在

※学外からの通学介助では、1回500円（学内の移動介助は1回300円）の謝金が学生スタッフに支払われます。

4. 授業配慮の依頼状況

【前期36名】 聴覚障がい学生2名、肢体不自由学生4名、発達障がい・精神障がい学生22名、その他8名

【後期34名】 聴覚障がい学生2名、肢体不自由学生4名、発達障がい・精神障がい学生22名、その他6名

Ⅲ アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み

1. トスプログラム

【Tossプログラム（Transition Ogaru from School life to Social life Program）】

Tossプログラムは、発達障がい（傾向・診断有）のある学生を対象としており、「目標設定スキル」「コミュニケーション/社会性スキル」「感情コントロールスキル」「実行機能スキル」といった4つのキースキルに焦点を当てた就労前支援プログラムであり、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの機関支援を受ける形で2020年度から継続実施をしています。4つのキースキルの習得を目的とし、ゴールプランを作成し、グループ学習でスキルを学び、個別学習でスキルを個別化し、インターンシップでスキルを実際に練習するという循環型のプログラムとなっています。2021年度前期は昨年度から継続していた4名の学生が、後期は2名の学生が参加しました。前期はハイブリッド形式、後期は対面で実施しました。また、前期後期ともに半数の学生がインターンシップにも参加しました。インターンシップは学内を基本としながら、おがるでのインターンシップも行いました（オンライン）。学内でのインターンシップ受け入れ先の開拓も課題となっています。次年度も継続予定です。

【辻由依】

2. 就職支援

2022年1月28日 / 障がいのある学生のためのキャリアガイダンス (キャリア支援課主催)
※Zoom 参加学生4名

3. 静かな空間の利用状況

前期利用延べ人数 5名 ※前期4月～9月中旬での利用者のべ人数
後期利用延べ人数 0名

4. 学生面談の実施状況

2021年度入学生 入学前面談 14名実施

※在学生については、前期・後期終了後に、支援の内容やニーズを確認することを目的とした、振り返り面談を
対面、電話等で実施。

5. 支援者募集と説明会の実施状況

- 1) 新学期学年別ガイダンスでのチラシ配布・支援者呼びかけ
新入生のみ実施 4月2・3日
- 2) 障がい学生支援者説明会
新札幌キャンパス 4月21日 (対面実施)
江別キャンパス 4月27・30日 (対面実施)
- 3) パソコンテイク講習会
遠隔パソコンノートテイク養成講座 8月26日 9月3・15日
(主催：札幌学院大学・北海道大学・北星学園大学・PEPNet-Japan)
江別キャンパス 7月14・15・20日 (対面実施)
1月12・13・19・20日 (対面実施)
オンライン 11月9・10・11・15・16・18日
12月2・16・21・22・23日
- 4) ポイントテイク練習会
江別キャンパス 11月25・26日 (対面実施)
12月2・3・9・10日 (対面実施)
- 5) 通学介助講習会
新札幌キャンパス 10月27日 (対面実施)
江別キャンパス 10月29日 (対面実施)

IVアクセシビリティ推進委員の活動状況



1. 関係機関の委員委嘱

(1) 日本学生支援機構（JASSO）障害学生支援委員

松川 敏道（任期：2021年4月1日～2022年3月31日）

(2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）運営委員

藤野 友紀（任期：2021年4月1日～2022年3月31日）



2. 北海道障害学生修学支援ネットワーク

北海道障害学生修学支援ネットワークは年に概ね2回のペースで情報交換会を開催しています。2021年度夏は本学が幹事を担当しました。新型コロナウイルスの感染が収束しない状況のため、Zoomを用いた遠隔開催としました。今回は以下のような連続企画を実施しました。

①2021年8月26日（木）13:00～16:00 情報交換会

8大学1機関から26名の参加がありました。事前にアンケートを配布し、他大学の状況について知りたいことや相談したいことを回答してもらいました。当日はその質問に答える形で、「支援事例の紹介」「障害学生支援の組織体制について」「グループディスカッション」の3部構成で進行了。各大学の喫緊の課題とニーズに応える具体的かつ実地的な議論ができたと好評でした。

②2021年9月3日（金）13:30～15:00 コーディネーター座談会

北海道障害学生修学支援ネットワークにおいて初めての試みでした。相談や意見交換ができる場を確保してコーディネーターの孤立を防ぐこと、リソースを共有して各大学における支援の幅を広げることなどを目的としています。4大学から6名の障害学生支援コーディネーターの参加、オブザーバーとして他の1大学1機関からも各1名の参加がありました。自己紹介のあと、活発な意見交流がなされました。

③2021年9月15日（水）13:30～15:00 地域連携によるノートテイクの派遣・養成についてのWG

大学間あるいは地域連携によるテイクの派遣・養成の実現可能性と方策及び課題について集中的に議論する機会を設けました。たちまちの具体化にはつながりませんでしたが、コロナ禍で遠隔情報保障も当たり前になってきた現在、道内のみならず道外も視野に入れた遠隔情報保障のシステムづくりは現実味を持ってきています。全国の動向も見ながら今後も検討を進めていきます。

また、上記の情報交換会等にあわせて午前に遠隔パソコンノートテイカー養成講座を開催しました（8月26日、9月3日、9月15日の全3回）。これは日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）のリソース活用事業に応募して実現した企画です。PEPNet-Japanの全面的な協力を得て、本学も主催の1校となりました。本学からも多くの学生の参加があり、コロナ禍で滞りがちであった支援学生の養成が大きく前進しました。また、他大学の学生との交流も良い刺激になったようです。

【藤野友紀】



3. 発達障がいのある大学生への修学就職支援に関するFD/SD研修会の開催

昨年度は学長裁量経費での実施で、任意参加型だったため参加者は少なかった。今年度は全教職員必修型で本委員会が主催となり、令和3年7月30日（金曜日）に開催した。研修講師には、大学研修等での実績が多く、関東にある発達障がい者を対象とした就労移行支援事業所の末吉彩香氏に依頼した。発達障がい者の就労支援および発達障がいのある学生の修学・就職活動支援に携わっている。

内容は発達障がいの入門的な内容とし、（1）発達障がいの基礎知識、（2）発達障がいのある大学生との接し方、（3）発達障がいのある大学生への進路・キャリア支援での工夫と配慮、（4）発達障がいのある大学生への授業・試験での工夫と配慮、の4部構成で、（4）については教員のみを対象とした。

計画段階では任意参加型研修として企画していたが、開催2か月ほど前に学長、理事らから全教職員必修型の研修にすることを打診された。主催となる本委員会で検討して決定し、学長から全教職員向けに参加呼びかけのメッセージがあり全学的な取り組みとなった。

FDSD研修会への参加を必修化し、参加者に事後アンケートも実施した。コロナ禍でもあり、感染予防対策からマイクロソフトTEAMSによる完全遠隔方式で実施することとした。ただし、教職員の多忙な業務への配慮から、後日録画をオンデマンドでも視聴できるようにし、その場合も参加と見なすことにした。

必修型FDSD研修会への参加状況については、リアルタイムオンラインで参加するか、オンデマンドで1回でもアクセスした参加者を出席とカウントした。その結果、職員の参加率は95.6%ときわめて高かった。教員については42.6%にとどまったが、全体としては66.7%となった。

本研修会の内容やアンケート結果等については、札幌学院大学総合研究所紀要第9巻(2022)に投稿した。特集「コロナ禍における多様なニーズのある学生に対する修学就職支援」において2論文が掲載される予定である。

【田中敦士】



4. 新たな障がい学生支援体制を考えるワーキンググループ

「障がい学生支援コーディネーター」と「臨床心理カウンセラー」を軸に、教員・学生支援課・教育支援課・キャリア支援課・保健センターが相互に連携した総合的な障がい学生支援体制を整備することが重要かつ緊急の課題という認識のもとに、新たな支援体制の構築と制度設計に資することを目的に、『新たな障がい学生支援体制を考えるワーキンググループ』が4月20日に設置されました。ワーキンググループでは、上記の目的のもとに「短期的課題としての当面の支援体制」及び「中・長期的課題としての新たな障がい学生支援体制」について計6回にわたって開催し検討しました。

短期的課題については、例えば「広報入試課との連携」「オープンキャンパス等での相談体制」「学生相談室とサポートセンターの役割分担と連携」などについて検討し、すぐに解決できるものについてはアクセシビリティ推進委員会の審議を経て改善をはかってきました。一方、中・長期的課題については、ワーキンググループの責任の範囲を超えるものとの意見がありこれについての検討はしませんでした。ワーキンググループを通して様々な課題が浮き彫りになり、今後の支援体制を考える上できわめて有益だったと思います。もっとも、ワーキンググループだけで解決できない課題もあり、これについては引き続きアクセシビリティ推進委員会で検討していくことにしています。

【松川敏道】



5. 研修会・会議等の参加

【研修会・会議出席】

<松川 敏道（教員）>

- 2022年3月23日 令和3年度日本学生支援機構障害学生委員会（オンラインZoom）

<藤野 友紀（教員）>

- 2021年9月7日 北海道大学令和3年度第2回高等教育における障害のある学生の支援に関する研修会「大学生の多様な性 大学における支援のあり方」
- 2021年12月14日 PEPNet-Japanシンポジウム 2022年3月2日
企画4「互いの思いに気づいてみよう～よりよい支援につなげるために～」
(グループファシリテーター)
- 2022年2月8日 PEPNet-Japan第45回運営委員会
- 2022年3月2日 PEPNet-Japan第4回総会
- 2022年3月2日 PEPNet-Japan第13回正会員大学・機関情報交換会
「聴覚障害学生にとっての文字情報保障とは」

<齊藤 美香（教員）>

- 2021年8月18日～10月3日 AHEAD JAPAN 2021年度全国大会（オンデマンド）
- 2021年10月3日 いこまいセミナー「専門職養成における発達障害者支援」（オンライン）
- 2022年1月26日 令和3年度障害学生支援大学長連絡会議（オンライン）

<辻 由依（学生相談室カウンセラー）>

- 2021年8月1日 学生相談セミナー（第53回）
- 2022年2月5日 学生相談セミナー（第54回）
- 2022年2月13日 大学におけるLGBTQ支援
- 2022年3月4日 北海道学生相談研究会研修会

【講師派遣】

<齊藤 美香（教員）>

- 2021年10月23日 2021年度日本産業衛生学会北海道地方会シンポジウム
「職域における発達障害への対応」（主催 日本産業衛生学会北海道地方会）
- 2021年12月24日 令和3年度札幌市立高等学校・特別支援学校副校長・教頭会
第4回研究協議会（主催 札幌市立高等学校・特別支援学校副校長・教頭会）
- 2022年2月18日 酪農学園大学EAEVE FDシリーズ「多様な背景をもつ学生への理解と対応」
（主催 酪農学園大学）

<辻 由依（学生相談室カウンセラー）>

- 2021年5月21日 市民講座「ネット依存ゲーム依存の理解と支援」
（主催 札幌学院大学心理臨床センター・同学生相談室、医療法人北仁会旭山
病院）
- 2021年10月29日 発達障がい傾向がある大学生の就労支援ワークショップ
（主催 札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる、札幌市自立支援協議会就
労支援推進部会）



札幌学院大学アクセシビリティ推進委員会

発行日：2022年3月31日

江別キャンパス：〒069-8555 江別市文京台11番地

新札幌キャンパス：〒004-8666 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1-1

電話番号：011-375-8567（江別キャンパス）

011-802-8635（新札幌キャンパス）

メールアドレス：shien@ims.sgu.ac.jp

（担当事務局：学生支援課学生支援係）